

第18回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会 会議録（概要）

日時：平成29年10月25日(水)
午後3時54分～午後4時33分
場所：諏訪市役所 2階 201会議室

【出席者】

岡谷市：今井市長、岡本企画課長
 諏訪市：金子市長、前田企画政策課長
 下諏訪町：青木町長、伊藤総務課長
 富士見町：名取町長、伊藤総務課長
 原村：五味村長、宮坂総務課長
 長野県：青木私学・高等教育課長
 柳澤諏訪地域振興局企画振興課長、神林主査
 茅野市：柳平市長、樋口副市長、柿澤企画部長、小平企画財政課長
 加賀美大学準備室長、内山室長補佐兼係長、牛山係長、金井主事
 大学：唐澤理事長予定者、河村学長予定者
 （学校法人東京理科大学）森口理事長特別補佐
 （諏訪東京理科大学）入江事務部長、牛山次長
 広域連合事務局：松崎事務局長、林企画総務課長

【公開・非公開の別】

公開

【会議内容】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 茅野市長
- 3 報告事項
 - (1) 第17回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会の会議結果について
 ≪事務局（茅野市）から報告「資料1」≫
 - (2) 第5回公立大学設立準備委員会の会議結果について
 ≪事務局（茅野市）から報告「資料2」≫
 - (3) 第2回公立大学法人評価委員会の会議結果について
 ≪事務局（茅野市）から報告「資料3」≫

【質疑応答】 報告事項について

質疑なし。

4 協議事項

- (1) 公立大学法人公立諏訪東京理科大学「中期目標」(案)について
 ≪事務局（茅野市）から説明「資料4-1～4-3」≫

【質疑応答】 公立大学法人公立諏訪東京理科大学「中期目標」(案)について

(会長：茅野市長)

ただいま中期目標(案)についての説明があった。諏訪東京理科大学の公立化に向けては、検討協議会があり、設立準備委員会があり、評価委員会があり、いくつかの会議において議論いただいた。そのおかげもあり、わかりやすくすっきりした中期目標(案)ができたのではないかと思っている。本日委員からの意見をいただき、最終的に組合議会の方へ上程していくという段取りになる。この件について意見や質問はあるか。

(各委員)

なし。

(会長：茅野市長)

それでは、この中期目標(案)を最終案として決定してよいか。

(各委員)

よい。

(会長：茅野市長)

それでは、11月7日に予定している諏訪広域公立大学事務組合議会での議決を経て、組合長が定めるとなっていることになっていくので、そのような取り扱いをしていきたいと思う。また、この中期目標に沿って、実行計画となる中期計画を立てていくこととなる。その際には委員から意見をいただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(2) その他

5 その他

(1) 公立諏訪東京理科大学の今後の研究の取組について

《事務局（諏訪東京理科大学）から説明「資料5-1～5-5」》

質疑応答 公立諏訪東京理科大学の今後の研究の取組について

Q. 教員の人数は何名になるのか。

A. 58名になる。半分以上が教授である。

(2) 起業支援及び技術者のスキルアップ支援について

《事務局（諏訪東京理科大学）から説明「資料6-1～6-2」》

質疑応答

質疑なし。

(3) その他

(入江諏訪東京理科大学事務部長)

9月に河合塾の全国模試が行われ、その結果に基づいて今後の志願動向等を予測したので報告させていただきます。

今回の模試の受験者のうち、諏訪東京理科大学を受験候補校として挙げている受験生は、昨年度と比較して約3倍程度増加した。この数字がそのまま実際の志願者数となるわけではないが、我々の予想としては、志願者は2倍程度増加し、前年度の1,600人から3,000人程度に増えるのではないかと予想している。また、河合塾でこの模試の結果を踏まえた偏差値の予測も出しており、平成30年度の諏訪東京理科大学の偏差値予測は50となっている。前年度の入試結果による偏差値が40～42.5だったので、偏差値も大幅に上がるのではないかとこの予測が河合塾から出されている。

これらの要因としては、全国からの諏訪東京理科大学への受験希望者が増えているということがあると思われる。また、国公立志向の受験生が増え、成績上位者が受けることにより、偏差値の予測も上がっているのではないかとと思われる。もう一つの要因としては、平成30年度は私立型の入試で他大学との併願が沢山できる、受験生にとっては非常に有利な入試形態となるため、受験候補校としてあがっている可能性もある。来年度以降国公立型の入試になるとこれが制約されてくるため、そのあたりのこともしっかりと考えながら翌年度以降さらに身を引き締めて対応していきたいと思う。

6 閉会